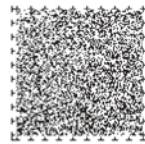


久留米市男女平等推進センタージャーナル



# JOURNAL

2021 vol.68

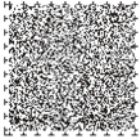
センター開館20周年記念号

これからも男女平等の実現に向けて



**(特集) 年表で20年を振り返る**

**～男女平等に関する国内外の主な動き～**



# 久留米市男女平等推進センター

## ～男女平等推進センターにゆかり

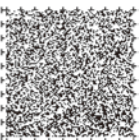
### ●久留米男女平等推進ネットワーク (えがりて久留米)

会長 堀田 富子 様

えがりて久留米の前身「久留米女性会議」の発会時メンバーが関わって、ジェンダー平等問題の解決拠点としてセンター建設を強く求め、このことを1987年に「女性問題解決のための久留米市行動計画」(1988年)の策定に向けた提言に盛り込むことができました。また、女性会議会員自ら横浜・名古屋・東京・仙台・静岡・新潟等のセンターの視察や、担当者を招いての学習、情報収集に非常な労力と経費を使われたことを思い、感無量の思いがあります。市民・議会・行政の連携が非常にスムーズに行き、市民の意見が反映された男女平等推進センターが誕生し、ここに20周年を迎えました。ハード、ソフト両面で高い評価をうけているのも、女性たちが熱意をもって自ら立ち上がり行動したからです。コロナ禍は、社会に構造的に存在する性差別を具体的に私たちに明らかにしました。男女間の格差がさらに広がった女性たちの未来を拓くためにもこのセンターの存在を改めて認識し、市民と行政の協働で、設置目的である「男女平等問題解決のための中核的総合施設」として、これからも利用されることを願っています。

### ●久留米市男女平等推進センター利用者連絡協議会 2006年役員 田町 菜穂子 様

今でも忘れられません。当時子育てと妊娠に苦戦していた私が、2001年のえーるピア開館後の真新しい一時保育室を利用させてもらったことを。第1子の妊娠を甘く捉え、徹夜で仕事をしていた私が、自分の体と向き合わなくてはいけないことを思い知ったのは久留米の小頭町公園近くに開院していた助産師の藤井さんとの出会いでした。第2子の出産は失敗したくないと思い、せっかつならと子連れで、一時保育室を利用し彼女の話聞く会を開きました。その後「ヴァン・ドゥ・ネット(フランス語で『優しい風』の意)」という子育てサークルを立ち上げ、文字通り男女平等推進センターの歩みとともにジェンダー問題、ドメスティックバイオレンス、性教育などを学びながら、仲間と共に楽しい子育てができました。中でも一番感謝したいことは、東京の先駆的なNPOへの視察費用を助成してもらったことです。おかげさまでお腹の子も今年20歳になります。ジェンダーギャップ指数が120位という日本。私たちの身近にもっと、人は皆、対等であるという価値感を根付かせるために、まだまだ男女平等推進センターの役割は大きいと思っています。



### ●久留米市男女平等推進センター運営委員会

会長 小坪 喜代子 様

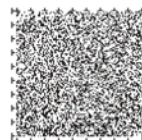
看護師だった私は、何の知識もないまま北野町に嫁ぎ、農業女性としてスタートしました。しかし、男性優位の農村社会での性別役割分担の酷しさに、いつしか自分を見失ってしまいそうでした。久留米普及指導センターの勧めもあり、女性農村アドバイザーに認定されたことが大きな転機となりました。農業社会における男女共同参画の推進を目的として活動を始め、多くの先輩女性から、貴重な体験談や意欲あふれる意見をいただき、学びを深めていくことができました。平成17年の市町村合併により久留米市民となりましたが、それから16年、男女平等推進センターで、基礎講座から学び直し、積み重ね、多くの方々と連携し同じ目標をめざして活動する喜びを感じることができました。性別にとらわれず、すべての人が、いきいきと輝ける社会の実現を信じ、これからも私なりに頑張っていきたいと思います。男女共同参画社会の定着に向けて活動する多くの人たちの拠点として、また、時代やニーズに合わせて様々な事業を実施し、20年間にわたり大きな実績をあげてこられたことに感謝し、今後のさらなる男女平等推進センターの発展に期待します。

### ●S・ぱ～ぷるリボン

協同代表 石本 宗子 様

S・ぱ～ぷるリボンにとって一番の思い出は、九州沖縄初の全国シェルターシンポジウムを久留米市と協働で男女平等推進センターを拠点に開催したことでしょう。2010年11月21日、えーるピアのエントランス、階段、2階が全国から集まった女性たちからまるで占拠されたかのような光景の中、当時の檜原市長が全国初の「DVのないまちづくり宣言」を高らかに読み上げました。全国に向けてDV問題への久留米市としての姿勢と決意を表明した瞬間でした。会場は、割れんばかりの拍手と感動に包まれ、宣言は全国の仲間たちに元気と勇気を与えました。シンポジウムは、2日間で延べ1800人が集う一大イベントでしたが、それ以上に、DV問題が行政課題であることを明確に打ち出した画期的な大会となりました。宣言から11年、センター発足から20年目を迎える今日、コロナ禍は皮肉にもDV問題をあぶりだしました。「宣言」具体化の中核である男女平等推進センターがその使命を果たし続け、今後も女性たちと共に歩み続ける存在たらんことを願っています。

# 20周年記念 寄稿



## のある方々からのエール～

### ●NO!SHくるめ

代表 平岡 靖治 様

男女平等推進センターの機能を利用して、様々な発信をしてきました。講師を招いての講演会やシンポジウム、映写会だけではありません。時には演劇を使っただけの発信であったり、音楽を使っただけのメッセージであったり。性をテーマにして2日連続でフォーラムをおこなったこともあります。一方通行の発信だけではなく、そこに参加する方も交えての、相互の気づきや交流がありました。センターの何より良いところは、持ち込む企画や運営にあたって、企画者や主催者の意図を汲み、実現に向けて一緒に考えてくれること。そのため、少々無茶な企画も安心して相談することが出来ます。

全国でも数少ない『男女平等』を名称に持つこのセンターは、男女平等の実現という目的のために、あらゆる切り口から、前例にとらわれることなく、市民とともに歩み育ててきた施設といえます。

### ●(当時)男女平等政策室長

(現在)東国分校区まちづくり振興会

会長 堀江 範子 様

もう20年にもなるのですね。男女共同参画社会基本法が施行された1999年10月に突然の人事異動で、女性政策室長を拝命し、「女性センターの建設」という大事業にいきなり関わることになりました。同時に建設される生涯学習センターのスタッフとともに先進施設を視察したりしましたが、何といても長年女性センターの実現を目指していた女性会議の方々の思いは特別で、何度も協議を繰り返して、満点とはなりませんでした。しかし、「男女平等推進センター」として2001年にオープンすることができました。その後、センターを拠点に様々な事業が活発に行われ、啓発・相談事業のほか、パープルリボンなどDVへの取組活動も全国的規模になるなど、建設に関わった者としてはセンターがとても活かされて安堵しました。センター建設後、私は条例制定に向けて作業を開始し、センター建設以上に紆余曲折を繰り返しましたが、2003年「久留米市男女平等を進める条例」を何とか施行することができ、その後男女平等行政から離れることになりました。そして、今は地域の中で活動し、男女という括りではなく、誰もが自分らしく堂々と生きることが出来る社会の早期の実現を願っています。

### ●心理職

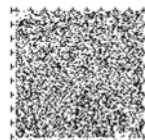
穴井 千鶴 様

「育児中の今、自分の生き方について悩んでいる女性の支援が必要ではないでしょうか」と2002年持ち込んだ企画が託児付きの連続講座となりました。グループワークでは「子どもは可愛い、でも自分のことは後回しの生活は辛い、このまま社会から取り残されていくようで不安」など受講者の率直な思いがあふれてきました。女性学講座ではそのような思いを持つ理由を男女平等の視点から考えてみる事の大切さがスタッフから提起されました。「母親だからこうあらねばならない、と思わなくてもよい。今もこれからも自分の人生は自分で決めていく」との思いを持ち、元気になった参加者の口コミとセンタースタッフのご尽力で講座も継続されました。「私も応援してもらえるんだと思って参加しいろいろなことに気づかされた」と語る吉岡さんは第一回受講者でその後、ファミリー・サポート・センターくるめセンター長等、地域支援で活躍しています。「あなたは どうしたいのですか?」と問われた時、人は自分の思いを声にできると思います。これからも地域の人々の声を大切に、一人一人が自分らしく生きられる社会実現のため前進し続けていただきたいと思います。

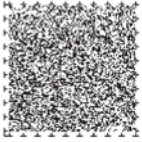
### ●福岡県男女共同参画センター「あすばる」

センター長 神崎 智子 様

貴センターが開設された2001年は、男女共同参画社会基本法制定後、その実践に取りかかる大切な時期であり、その時期に活動を始められたことは大変意義深いものがあると思います。開館後は、研修や情報提供、自立支援、交流、相談等さまざまな活動に取り組んでこられました。市民と一緒に活動内容を工夫、充実することにより、多くの成果を上げられたことに心から敬意を表する次第です。特に、貴センターはDV被害者支援に関して力を入れ、被害者の心身の負担を軽減するためにワンストップ体制を構築し、被害者の頼れる大変力強い存在となっています。昨年12月に国の第5次男女共同参画基本計画が閣議決定されましたが、その中で男女平等推進センターの役割の重要性について言及されており、ますますその存在が重要になっています。今年は、福岡県の第5次男女共同参画計画もスタートしました。今後とも、私ども福岡県男女共同参画センター「あすばる」と連携し、男女平等と男女共同参画社会実現のための活動を展開していただけたらと思います。貴センターのますますのご発展を心からお祈りいたします。







↑ 全国シェルターシンポジウムを久留米にて実施（2010年11月）。



← パールリボンツリー（2017年市民団体より寄贈）の設置。



↑ 女性のまちづくり参画講座で、九州北部豪雨の被災地である朝倉市を訪問。



↑ 女性のためのパソコン技術習得講座を開催し、女性の社会進出を応援。

## 相談室だより

### ●相談室開設20周年に寄せて

久留米市男女平等推進センター相談室は、女性の生き方支援のための相談室として発足以来、女性から年間3000件～4000件の相談を毎年受けてきました。DV、性暴力、固定的性別役割分担に起因する女性ゆえの生きづらさ等、相談は多岐に渡っています。相談室は受容、傾聴だけに留まらず、情報提供、同行支援など問題解決に向けての具体的な支援を行ってきました。前に進む女性たちを見る一方で、女性たちが、仕事や住み慣れた居所を捨てざるをえない状況で再出発する様子を幾度となく目にしてきました。

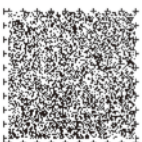
### ●DV相談件数が過去最多

内閣府の調査によると、全国の自治体が運営する「配偶者暴力相談支援センター」及び去年、内閣府が開設した「DV相談プラス」に寄せられた令和2年4月から11月までのDV相談件数は、合わせて13万2355件と過去最多でした。

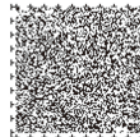
男女平等推進センターで受けた相談件数についても、令和3年2月、3月は急激に増え、特に深刻なDVや離婚に関する検討ケースが増加しています。以前から家族、子ども、親、職場などに迷惑をかけたくないなどの理由で加害者から離れることを思いとどまってきた女性たちが、新型コロナウイルス感染症の影響で精神的にも経済的にもさらに過酷な状況となり相談にいられています。

### ●女性たちの輝く未来につながる支援をめざして

社会が大きく変わろうとしている今、女性たちは、全てを諦めて避難子どもたちと姿を隠さなくても生き生きと暮らせるような社会を希望しています。私たち相談員は、安全確保をしながら可能な限りの情報提供や具体的な支援を行い、これからも女性たちの輝く未来のためのお手伝いができればと思っています。



# 「パネルでみる男女共同参画」



これまで図書情報ステーションが作製してきた、男女共同参画に関連するパネルを開館20周年記念にあたり展示しています。あわせて、男女共同参画に関する年表や統計データで振り返ります。



## 男女平等先進国から学ぶこと

図書情報ステーション

経済、政治、教育、健康の4つの分野の順位をもとに、男女格差を数値化したジェンダーギャップ指数。2021年、日本は156か国中120位という順位でした。

今回は、ジェンダーギャップ指数上位国の男女共同参画がわかる本を紹介します。

### 女も男も生きやすい国、スウェーデン

堀内 都喜子/著 ポプラ社 2020.1

ワーク・ライフ・バランス世界1位。幸福度世界1位。フィンランド人は、仕事、家庭、趣味、勉強…なんにでも貪欲。同時に、睡眠時間は平均7時間半以上。やりたいことはやりながら、ゆとりのあるフィンランド流の働き方、生き方の秘訣を紐解く。



### フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか

三瓶 恵子/著 岩波書店 2017.1

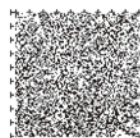
女性の議員や大臣も多く、父親の育児休暇取得も当たり前の国、スウェーデン。男女平等政策は、ここ30年で大きく進み今も日々更新中。保育園や学校、企業や社会でどのように取り組んでいるのかを具体的に紹介。また若い世代や子育て世代へのインタビューからも、それらを浮き彫りにする。そこには日本の目指すべき未来へのヒントがある。

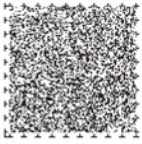


### ノルウェーを変えた髭のノラ

三井 マリ子/著 明石書店 2010.4

ノルウェーは女性解放を求めた女性たちの活躍により世界トップの男女平等を実現した。クォーター制など進んだ社会制度と様々な分野で活躍する女性たちの姿を生き生きと伝える。



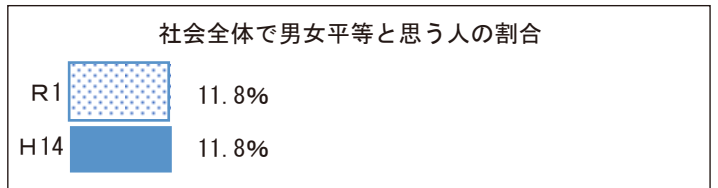
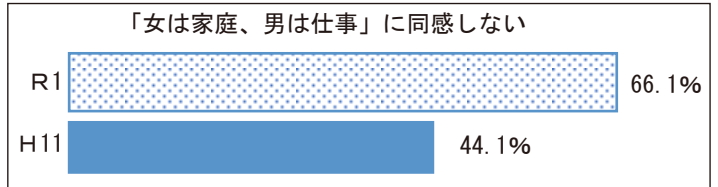
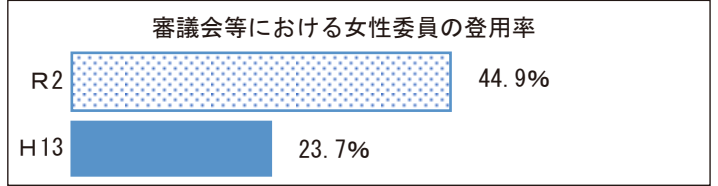


## 男女平等政策の20年の意識の変化

男女平等推進センター開館と同じ年、男女平等に関する計画は「男女共同参画行動計画」と名称を変え取組を進めてきました。取組から20年を経て久留米市の男女平等は進んだのでしょうか。

### ○女性の登用や男女平等の意識が向上

審議会等における女性委員の登用率は、平成13年度の23.7%に対し、令和2年度は44.9%と上昇しました。また、市民意識調査では固定的性別役割分担意識に同感しない人の割合は、平成11年度の44.1%に対し、令和元年度は66.1%と大きく上昇しました。男女平等推進センターの開館以降、女性の登用や男女平等の意識改善は進んでいます。



参考：久留米市男女平等に関する市民意識調査

### ○身近な場では男女の不平等感が解消されていない

一方、社会全体で男女平等と感じる人の割合は、11.8%のみであり、身近な生活の場における男女の不平等感は解消されていません。

### ○今後の展望

久留米市は令和3年4月、「第4次久留米市男女共同参画行動計画」をスタートしました。今後は、市民の皆様一人ひとりが男女平等に向けた主体的な行動ができるよう、全庁で取組を進めてまいります。

問 協働推進部男女平等政策課 電話:0942-30-9044/FAX:0942-30-9703

## 男女平等推進センター開館20周年の節目を迎えて

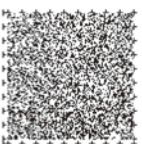
久留米市男女平等推進センターでは、市の男女平等推進施策を実施するための拠点として、自立・情報・交流を柱とした様々な事業を行ってきました。事業実施にあたりご協力、ご支援を賜りました多くの方々、また、事業に参加して下さった方々に心より感謝申し上げます。

20周年を迎えるにあたり、当時の状況をご存じの方々に話を伺い、開館に向けた熱い思いや困難を乗り越え成し遂げられた数々の活動を知ることができました。当センターを支えて下さった皆様の情熱があればこそ今があり、また、20年分の思いを引き継いで、男女平等を進めていかねばならないと強く感じています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により私達の生活や考え方を大きく変えざるを得ない状況となりました。感染拡大により、あらゆる分野で女性の困難な状況が顕在化し、男女共同参画を進めることが益々重要となっています。そのような中で、当センターでの啓発や講座の手法もオンライン化の必要性が高まっており、新たな利用者の開拓や更なる活動の広がりにつけていきたいと考えています。あわせて、DV・性暴力被害者支援体制づくりについても市の重要な施策として今後も引き続き取り組んでいきます。

当センターは、これからも男女平等の実現に向け、皆様と一緒に歩んでまいります。

令和3年6月 男女平等推進センター 職員一同



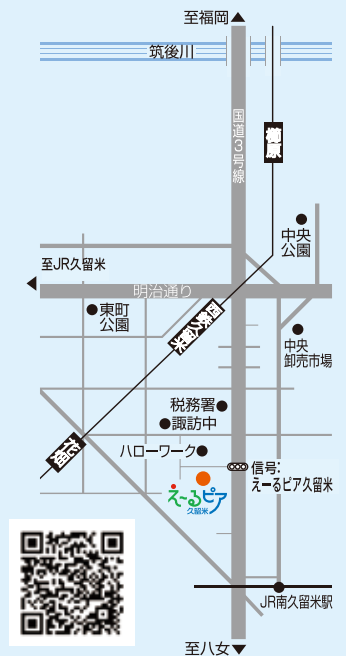
●編集・発行●  
令和3年6月

### 久留米市男女平等推進センター

〒830-0037  
久留米市諏訪野町1830-6  
えーるピア久留米内  
TEL. 0942-30-7800  
FAX. 0942-30-7811



URL <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>  
E-mail [danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp](mailto:danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp)



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分  
JR久留米駅から約20分  
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。